



晴天の日は爽やかな季節になりました。57年前の10月10日もそうでした。昭和39年(1964年)の東京オリンピック開会式の日でした。厳しい冷戦の時代でしたので、当時のドイツは東西に分裂した状態でした。けれどもこのオリンピックには“統一ドイツチーム”として参加し、優勝者表彰ではどちらの国歌でもないベートーベン「喜びの歌」が演奏されました。

ほっらっ 浣刺! 小学生

今月7日(木)、市立北越谷小学校4年生の大間野町旧中村家住宅での社会科見学が行われました。大八車と天秤棒の体験、主屋の見学と水害の学習です。児童の生き生きした姿に、職員は活力をもらいました。その一部をご紹介します。



アクセルもブレーキも人間が

米俵1俵(30kg。本来は60kg)を載せた大八車の体験は初めてなので、いろいろな発見があったようです。まず動かす引き始めに力が必要です。次に進む方向がさだまりません。フラフラするのです。そして動き始めると加速度がついて、停まる時は思った位置に停止させられません。そんな時に児童から発せられた言葉「アクセルもブレーキも人間がやるんだ!」この発見は子どもたちにとって大きなものでした。

空の桶でも重い!

天秤棒は単純な運搬用具ですが、安定させるのは難しいものです。両端に桶を下げるのですが、空でも重いのです。実際は2つの桶で4kg以上の物を運んだことでしょう。



水はどこからどこへ?

この疑問はそこには“ない”ものから想像して生じた問いです。当館には残念ながらかつての水回り設備がありません。そのことに気づいた故の疑問です。大した想像力です。毎日の生活に欠かせない水をどこからどのようにしてどこまで運んだのかということ、桶、井戸、風呂桶(五右衛門風呂)などの言葉で説明したら、今の生活と比べて不思議そうな顔つきでした。

一生の間に何度も

明治期45年間にこの地域では大水害が9回ありました。つまりかつては一生の間に何度も水害に遭っていたのです。このことに児童たちは改めて驚いていました。古来この地域に水害が多い理由やカスリーン台風(昭和22年・1947年)について、児童たちは知っていました。そこで、人々はどんな工夫をして被害を少なくしようとしたか、また、町や村、市はどのような対策をとったかについての学習をしました。

カスリーン台風直後の大沢橋付近



心を包む和の文化「風呂敷」

市場やお店での買い物を入れる物がレジ袋やトートバッグ以前は“買い物かご”でした。そしてその前は風呂敷でした。若い方々の中には風呂敷を使ったことがない人も少なくないことでしょう。そもそも何故“風呂敷”敷なのか疑問を持った人もおられるかもしれません。風呂敷は意外と重宝で多種多様なものであることを再認識しようと思い、今年の10月2・3日に開催したエコに関する展示のテーマにしました。

“風呂敷”の由来

物を包む布は古代には「平包(ひらづつみ)」と言われていましたが、中世・室町期には、蒸し風呂に入る際に家紋を染め抜いた布に自分の衣類を包んだことから「風呂敷」と言われるようになったようです。



買い物かご

風呂敷包み

多彩な風呂敷

【唐草模様風呂敷】（個人蔵）

唐草模様はわが国では最もよく用いられたデザインの一つです。奈良の薬師寺如来像の台座にも見られるように、ブドウなどの蔓をデザイン化したものは古代ギリシャ、古代エジプト、メソポタミアからシルクロードを通して日本にもたらされました。



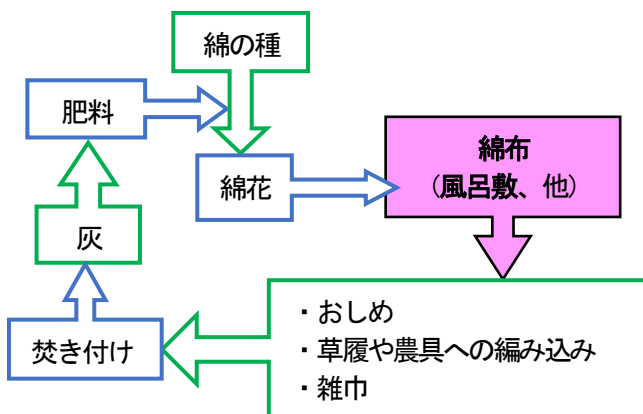
再利用、再々利用、再々再利用

風呂敷は物によっては何世代にもわたって使われました。右上の2枚は使われた年数の違いを表しています。風呂敷に限らず、布は使い古されて初めの目的を果たし終わると、次の使い途がありました。例えば下のような使い方です。

こうやって擦り切れるまで使われました。人はこのような大きな循環の中で生活しました。まさに“3R”でした。

3R

- *REDUCE (リデュース)・・・無駄なゴミをできるだけ少なくすること。
- *REUSE (リユース)・・・一度使った物を何度も使うこと。
- *RECYCLE (リサイクル)・・・使い終わった物をもう一度資源に戻して製品を作ること。



越ヶ谷裁縫女学校生徒
(明治43年・1910年)
手に風呂敷包みがあります



【満州国地図の風呂敷】（越谷市教育委員会蔵）



地図中ピンクの部分
は日本が併合した朝鮮
半島と租借した遼東半
島（大連、旅順）です。

「ふろしき研究会」の
森田知都子氏によれば、1932年（昭和7年）満州国が建てられ
満蒙開拓への勧誘に使われたり、移民や兵士として行く人への
餞別・記念として渡すために生産販売されたものとのことです。

この風呂敷にはその背後に戦地に向かう人と送る家族、移民
として故郷を離れる人々、現地の人々の苦悩、そしてその後の
混乱での悲劇、中国残留孤児やシベリア抑留などの姿や出来事
がありました。

㊦ = “包”の文化

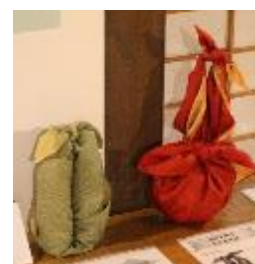
風呂敷は物を運搬するために用いますが、そこには「包む」行為が
あります。そしてこの行為には人の相手やその物に対する気持ちが含
まれます。大切にしている気持ち、尊重、感謝、愛情、尊敬、思いやり、
祝意 祈願などです。これらの心は風呂敷の色やデザインとして表現
されることもあります。このように風呂敷は資源を大切にしてお有効活
用するだけでなく、人との繋がりを深めるもの、“心を包む”ものでも
ありました。

「㊦」（『五體字類』西東書房刊）は“包”の古代象形文字です。胎内の
子を愛おしく包んでいる形です。



表: 鮫小紋(武士の袴によく
用いられたデザイン)
裏: 桜花

かた結びにして、裏地の模様
が少し見えるようにしました。



右: 西瓜などの包み方
左: 2本のピンの包み方